



★医学ジャーナリスト 小野隆司

松野リウマチ整形外科 松野博明院長

関節リウマチのLCAP療法②

関節リウマチの新しい治療法であるLCAPは次のような手順で行われる。①片方のひじ、または太ももなどの静脈から血液を抜き出す②特殊な除去フィルターを使い、活性化された白血球を取り除く③フィルターで浄化された血液を逆側の静脈から返血する。専用の機器を使い、治療時間は約1時間。1回の治療で2000〜3000ミリの血液が白血球除去フィルターを通る。腎臓透析のリウマチ版ともいえる。

日本リウマチ学会指導医でもある松野博明・松野リウマチ整形外科院長は「薬物療法の効果が十分ではないといった方がLCAPの対象になりま。週1回のペースです。週1回のペースで5回行います。始まったばかりの治療法なので長期的効果を示すデータはありませんが、3年ほど効果が持続した症例も報告されています」と話す。04年4月に保険適用となつているが、研究に参加した病院(全国14施設)

高い有効性 約3年効果持続した症例も

の報告では2割以上リウマチの症状が改善した73%、同5割以上改善した30%などとなっている。

松野院長は「リウマチ治療の主体は薬物療法となります。その薬物が効かない人を対象とした臨床試験でこれだけの改善率を示したわけですから、LCAPによる有効性はかなり高いといえます」と言う。

現在、LCAPの保険適用条件は「活動性が高く薬物療法に抵抗する関節リウマチ患者、または発熱などの全身症状と多関節の激しい滑膜炎を呈し薬物療法に抵抗する急速進行関節リウマチ患者」となっている。ほかに「腫脹関節数6カ所以上」などの項目もある。

ただ治療費は安くはない。5回分で80万円ほどかかる。高額療養費が適用されるので実際の自己負担分は8万円前後となる。「副作用としては吐

き気、おう吐、血圧低下、発熱などが報告されていますが、問題にならない程度です。リウマチは薬の効きや効果の持続などが患者さんによって、かなり差があるのも特徴です。その意味でもLCAP療法は治療の選択肢を広げています」。

LCAP療法は白血球が異物に取り付く性質を利用した治療法。治療中は活性化した白血球数は減るが、体の中では絶えず白血球は作られているのです。元の数に戻る。「これまで長きにわたり関節リウマチ治療は、症状をいかに抑えるかの対症療法に終始してきました。それがLCAP療法や他の新しい治療にみられるように最新のリウマチ治療は、免疫異常そのものを正常化することによりリウマチを治療しようという方向に変遷しつつあります。近い将来、リウマチの根治治療も可能ではないかと期待が持たれています」。

◆LCAP療法を実施している医療機関 旭化成メディカルホームページ (<http://www.lcap.jp/ra/>)では都道府県別に約100の医療施設を紹介している。住所・電話番号・担当する診療科・診療時間などが分かるようになっている。